

Gutter+Jenter

Cinematket 19.-23. mars

3月19～23日の5日間にわたり、日本大使館は、NFIシネマテークおよび国際交流基金の協力のもと、「Gutter+Jenter」をテーマに日本映画上映を行いました。上映した3本の映画は共通して、日本の10代の若者が直面する現実を描いており、ノルウェーの観客に、日本ではどんな風に若者が成長していくのかを見てもらいました。少年少女から大人まで、誰もが経験したことがあるような事柄が盛り沢山で、おそらく観客にとって、意外なくらいノルウェーにおける若者の現実との共通点があることに驚いたことでしょう。

オープニングに際し、日本専門家のØyvor Nyborg氏による講演が行われました。講演では、日本で育つ若者の日常に焦点が当てられ、またNyborg氏の研究テーマである日本におけるジェンダーについて、自身の日本留学経験を交えつつ紹介されました。本講演は、その後に上映される映画の印象を様々に連想させるものでした。

上映された3つの映画は、矢口 史靖監督作品の「ウォーターボーイズ」(2001)「スウィングガールズ」(2004) および、新海誠監督作品の「秒速5センチメートル」です。どの作品もそれぞれ2回ずつ上映され、いずれも多くの観客が訪れました。アンケートに答えてくださった方々からは、大変好意的な反応を頂き、皆さんに楽しんで頂けたことと嬉しく思います。

多様な世代のノルウェーの方々が本件上映会に関心を示してくれたことは喜ばしく、また、“青少年をテーマにした映画”が、必ずしも若い世代のみに受け入れられるわけではない、ということが感じられました。

